
魔王だけどコンビニで世界制服目指すことになった

よっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王だけコンビニで世界制服目指すことになった

【Nコード】

N9073Q

【作者名】

よっちゃん

【あらすじ】

タイトルの通りの内容ですが何か。

突然で悪いが、私は魔王だ。

その名を聞けば人々は震え、誰もが畏怖する。そんな存在だ。そんな私だが、内心今とても困惑している。

ティンロンリンロンリンロン♪

「いらっしゃーせー」

村民A「肉まん1つ」

「かしこまりました。こちらお釣りになります」

ティンロンリンロンリンロン♪

魔王「ありがとうございますー」

私は魔王だ。

私は今コンビニで店長をやっている。

魔王だけどコンビニで世界制服目指すことになった

――――

魔王「はあ」

なんでこんな事を行っているのだ私は。

ああそうだ、思い出した。大臣の奴が訳の分からん事を言い出したのが始まりだったか。

思い返せば一週間程前か。あいつから妙な提案があったのは。

回想

大臣「魔王さま！古代の文書を解読した所おもしろい物を発見しましたぞ！」

魔王「何だ騒がしいな。文書って、お前がこの前拾ってきた奴か」

大臣「もしかするとこれは世界制服に繋がる物かもしれませぬ！」

魔王「ほお。聞かせてみる」

大臣「この文書によるとですな！古代人は、雑貨や食料品を売る「コンビニエンス」なる物を大地の至る所におっ建て！この地上を埋め尽くしておったそうです！」

魔王「へえ」

大臣「「コンビニエンス」から出て数歩でまた別の「コンビニエンス」が見つかる事もあったそうで

人々はこの建物に大きく依存しておったそうです！」

魔王「それはそれは」

大臣「そう、つまり古代人は「コンビニエンス」なるものに世界制覇されていたと言っても

過言ではないとー！」

魔王「ん？うーん・・・そうか？」

大臣「我々もこれを真似て、この大地に「コンビニ」を乱立しまくり、人々の購買意欲を操り、経済を動かし！果ては世界制服というわけですよー！」

魔王「いやその理屈はおかしくないか」

大臣「早速、「コンビニ」第一号店をこの地に復活させましたのじや、地図でいうとこの辺りに」

魔王「ちょっと待て、ここは人間たちの城のすぐ近くじゃないか」

大臣「だからこそ魔王様直々にこのコンビニの「店長」を勤めていただく

人間共の視察、観察、勇者達のニーズ研究、市場調査、マーケティングなどをしてほしいのですじや」

魔王「お前単に金儲けしようとしていないか？」

大臣「さあ行くのですじや！我々が世界を支配する日も近いですぞー！ー！」

・
・
・

・
・

・

回想終り

魔王「何だか知らんが、うまく乗せられてしまった感じがあるな」

だいたい私は、世界征服とか割とどうでもいいのだけだな。

先代魔王である親父は、世界を支配しようとなんか色々がんばっていたが、

その親父も数年前寿命で逝ってしまって魔王側も弱体化してきたし、あれで大臣も焦っているのか。

そっぴや親父の葬式の時、見苦しいくらい大泣きしていたなあいつは。大往生だったってのに。

ティンロンリンロンリンロン♪

魔王「ん、客か。って、あ・・・」

スライム「こんな所に店が・・・って。え？魔王様!？」

魔王「・・・いらっしやっせー」

スライム「いや、魔王様ですよ？何やってるんですかこんな所で

！」

魔王「・・・何を買い求めでしょうか？」

スライム「いや・・・え、ええ？えっと、じゃ、じゃああの・・・薬草を3つ」

魔王「24Gになります」

スライム「あ・・・ああ、はい」

魔王「・・・ではこちら、6Gのお釣りになります」

スライム「・・・」

魔王「・・・」

スライム「・・・あの」

スライム「何があったかは分かりませんが・・・。僕、応援してますから・・・」

ティンロンリンロンリン

魔王「ありがとうございました・・・」

魔王「・・・」

ああ、
何だろうか。
もの凄く気まずい。

そうか、ここは勇者の故郷の城下町。の、すぐ近くの草原。
スライムなどの下位モンスターが生息する場所だったな。
仮にも魔族の王がこんな所で働いてたら幻滅するか・・・。
しかも周りはピクニックに最適な爽やかな風が通り抜ける草原とき
た。

純粹可憐な少女とか憎めないヤギ使いの少年とかならまだしも、魔
王だしな。私。

早くも、辞めたくなってきたな・・・。

ティンロンリンロンリンロン♪

魔王「いらっしやいま・・・何だお前か」

大臣「魔王さま、いかがですかな首尾の方は」

魔王「どうもこうも、今さっきスライムにすら同情されたばかりだ」

大臣「しかなかなか板についてきた様ではないですか。制服姿、
似合っておりますぞ！」

魔王「やかましいわ」

お前も少しは手伝ったらどうだ。と言いかけたが、辞めておく。
こいつはこいつで商品の手配やら会計やら、その他もろもろの雑務

を一人でこなしているのだ。
そういうのは私はよくわからるので全部こいつに任すことにした。
多分よくやってくれているのだと思う。

大臣「魔王さま、申し訳ございません。実は大事なことを忘れてお
ったのですじゃ・・・」

魔王「なんだ。どうした」

大臣「実はこのコンビニの店名を、つけ忘れておりましたのですじ
ゃ」

魔王「そんな事が」

大臣「そんな事ではございませぬ！店名とはつまり店の顔！これの
良し悪しで！我々の世界征服の成否は大きく変わってくるのですぞ
！」

そもそも世界征服自体が無理な話だと思いが。

大臣「そういう訳で早速このコンビニの名前のアイデアを出し合う
のですじゃ。参考までに、その辺散歩してたスライムも連れてきま
したのじゃ」

スライム「えっと・・・よろしくお願いします」

魔王「う、うむ」

またお前か。何か気まずいから勘弁してほしいな。

それにしても店名か。うーむ。
こういうのはシンプルで覚えやすい方がいいな。
あ、そうだ。

魔王「コンビ二エンス魔王とかはどうだ」

大臣「お言葉ですがあまりにそのまんま過ぎますぞ魔王さま」

スライム「そ、そうですね」

魔王「そうか・・・？結構気に入ってたんだが」

大臣「実は私めもとっておきのを考えて来たのですじゃ」

魔王「ほう。言ってみろ」

大臣「名付けて魔王最終究極型衝撃竜心（ファイナルインフィニテ
イソニックドラゴン・ハーツ・ブレイク）商店！！」

スライム「必殺技みたいですねー・・・」

魔王「長い上に何か香ばしい感じがする。却下」

大臣「かなり自信があつたんですがの・・・」

スライム「あ、あの」

魔王「何だ。何か案があるのか」

大臣「言ってみなさい」

スライム「マオ・マートってどうですか。マオは魔王のマオで」

大臣「ふむ。覚えやすくはある。しかしどこかで聞いた事ある感じもあるしやはり私の」

魔王「良いんじゃないか。かわいくて」

大臣「んなっ」

スライム「本当ですか？ありがとうございますっ！」

魔王「マオ・マートか。うむ気に入った。大臣、これで行くぞ」

大臣「ぬ・・・残念ですが仕方ありますまい。では看板などの手配をしますかの」

そういう訳で、我々のコンビニ世界征服計画の記念すべき第一号店は「マオ・マート」に決定したのじゃ。

これからガンガンこの大地をマオ・マート一色に変え。果ては世界征服に届くまで。

ワシたちのコンビニ商戦は、まだまだ終わらないっ！

ー大臣の会計日誌より

(後書き)

Q 打ち切りですか？

A はい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9073q/>

魔王だけどコンビニで世界制服目指すことになった

2011年10月8日17時20分発行